東京都議会議員 おときた駿

都政レポート

2015年第２号

ホームページでも情報発信中! http://otokitashun.com

音喜多駿（おときたしゅん）／1983年９月21日北区王子本町生まれ。
いなり幼稚園、北区立王子第二小学校卒の生粋の北区民。海城中学・高校、
早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業後、外資系企業で７年間のビジネス経験を経て、
現在、東京都議会議員一期目。都議会派「かがやけTokyo」では政調会長を務める。
ネットを中心に積極的な情報発信を心掛け、都政情報等で365日ブログを更新中。

2015年第２号 目次

すべての子どもたちに、温かい家庭を！ 児童養護を考えるイベントを開催

みんなで知ろう、子どもたちを取り巻く実態 社会的養護（児童養護）に関するQ&A

参加者120名超!

児童養護を考えるイベントを開催

2015年８月22日、「すべての子どもたちに、温かい家庭を!」と題して、**我が国と東京都の社会的養護・児童養護を考えるイベント**を行いました。
前号の政策レポートでもお伝えした通り、我が国では全国に３万人、東京都だけでも4000人もの要保護児童(※)が存在します。そして彼らへの支援は現状、まったく十分とは言えない状態です。※なんらかの事情で両親や保護者と暮らせなくなってしまった子どもたち

「子どもの政策は、お金にも票にもならない」
そのような言説が平然とまかり通る政治の世界において、心ある政治家・議員の仲間たちと力を合わせたい。そしてこの分野に取り組む当事者・有識者たちとのネットワークを形成したい。その想いで私も中心メンバーの一人となって発足した、**「こども@ホーム推進委員会」**が主催したイベントです。

ゲストにお迎えしたのは、０才児からの特別養子縁組を行う「愛知方式」の発案者で、この分野の第一人者でもある社会福祉士・元児童相談所職員の矢満田篤さん。そして東京都職員でありながら、自らも養育里親を務める竹中勝美さん。

矢満田篤さんからは、**児童の虐待死としてもっとも多いのは０歳０ヶ月＝産まれた直後である**こと、これを防ぐためには出産前から妊娠女性をケアし、産まれた直後に養育家庭へと送り出す仕組みが必要となることを講演していただきました。

また竹中勝美さんからは、いかに**我が国と東京都の児童養護分野が施設偏重**となり、里親・特別養子縁組が行われていないか。発育段階でもっとも重要な乳幼児の時期を、家庭ではなく施設（乳児院）で過ごすことで、どれほど多くの問題が発生するかを数値に基づいてお話いただきました。

少子化対策が注目される昨今ですが、**すでに生まれている子どもたちを大切にすることも最重要課題**です。注目されづらいこうした児童養護の分野を改善していくためには、世論の後押しが不可欠となります。私も先の都議会で、子どもの「家庭を得る権利」の観点からこの問題を大きく取り上げ、舛添都知事から改善を約束する答弁を引き出しました。

今後もこのようなイベント・組織活動で世論喚起を行いつつ、東京都へも改善の政策提言を続けて参ります。

さらなる詳細は私の公式ホームページ、
または「こども@ホーム推進委員会」のオフィシャルサイトもご参照ください。

活動の詳細は
こども@ホーム 推進委員会
オフィシャルサイト
http://kidshome.jp

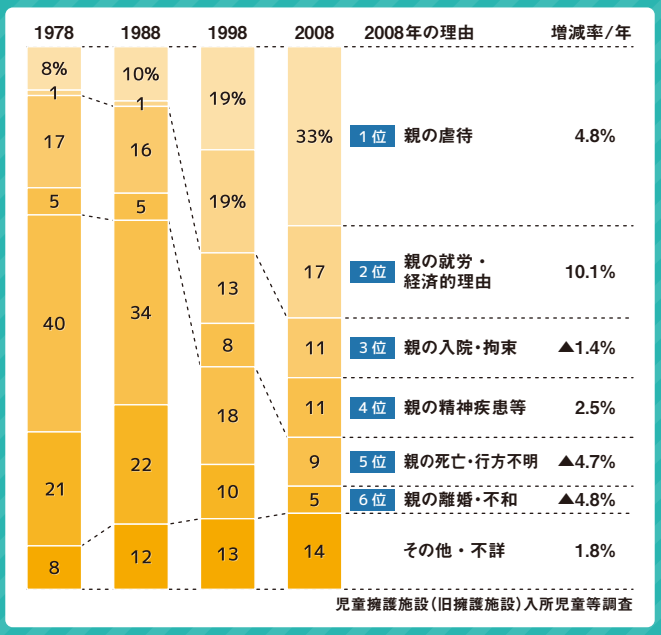
社会的養護（児童養護）に関するQ&A

Q1 社会的養護って、身寄りのない可哀想な子どもたちが受けるもの？

必ずしもそうとは限りません。

戦後間もない頃は、文字通りの「孤児院」として設立された児童養護施設ですが、現代においてはむしろ両親との死別で要保護児童になることは少なく、「両親や保護者からの虐待」「経済的困窮」などの理由で保護を余儀なくされるケースが中心となっています。

参考 過去30年間における子どもの施設等入所理由



Q2 そういう子どもたちは、手厚い保護を「施設」で受けているのでは？

残念ながら、十分な支援があるとは言えません。

児童養護施設は高齢者向けの介護施設などと比べて、予算や人員配置の措置なども極端に少なく、少数のスタッフが大勢の子どもたちの面倒を見ているような状況です。当然、両親のようなきめ細かなケアができるはずがなく、教育指導などは行き届いておりません。児童養護施設出身者の進学率は有意に低く、社会に出てからも困難に直面し、生活保護に転落するケースが多いことが指摘されています。そこで私は、施設に頼るのではなく、各家庭で要保護児童を預かる「里親」制度や特別養子縁組を進めることを提言しています。

Q3 施設のスタッフを増やしたり、充実することでは解決できないの？

特定の人物から愛情を注がれないと、愛着障害になるリスクが指摘されています。

どれだけ施設スタッフの人数を増やしても、シフト制で交代勤務をし、退職や異動の可能性もある仕組みの中では、子どもたちが両親のような特定の人物と愛着関係を築くことができません。これは後々の人格形成や学習能力に大きなマイナス点になることは、学術的な研究ですでに証明されています。その点、里親・特別養子縁組であれば、この問題点は解決できます。

Q4 どうして日本では里親措置・特別養子縁組が進まないの？

行政が前例踏襲主義で慎重なこと、予算や人員に余裕がないことが最大の原因です。

我が国、特に東京都の行政は、里親措置・特別養子縁組こそが国際スタンダードでより良い方法であることに気づきながらも、「万が一、里親に委託した子どもに事故があったら責任が持てない」「プロが見ている施設の方が、安全ではないか」という事なかれ主義を取っています。また、施設でまとめて面倒を見るより、個別に里親措置をした方が行政コストは増大しますから、その余裕がないことも大きな原因です。

私は行政の意識改革、そして予算増額措置の両面への政策提言を続け、まずは東京都からこの状態を打ち破りたいと思っています。

ブログ、ツイッターで毎日情報発信中！

- Twitter http://twitter.com/otokita
- ブログ http://otokitashun.com/blog

「政治や都政のことって、イマイチわかりづらい」「政治家って普段なにをしているのか、さっぱり伝わってこない」そういった疑問に応えるためにおときた駿は、ブログやSNSをかかさず「毎日」更新し、政治や都政の現状をお伝えしております。ネットを活用される方は、ぜひ**「おときた駿」で検索**してみてください！

各種連絡先

おときた駿事務所

〒114-0034 東京都北区上十条2-25-14

Tel/Fax 03-3908-3121

都政のこと、北区のこと… どんな小さなことでもかまいません。皆さまの声をお寄せください！

お問い合せは… **mail@otokitashun.com**